

合併記念特別号

村尾技報 2026

2026年1月～9月



MURAO
G I K E N



ECONOS

大地の声を、聞く。

Decoding the Voice of the Earth.

地域の声を、活かす。

Empowering the Voice of the Community.

株式会社村尾技建 株式会社エコノス

合併記念式典 2026年10月2日

企業理念と新たな出発

両社の歩みを知り、これからの会社づくりをともに考える。

01 合併後も受け継ぐ企業理念

仕事を通じて自らを高め、社会に貢献する。

02 新中期経営計画 第53期～第55期

融合から創造へ

From Integration to Innovation

2026年10月～2029年9月

両社の技術と文化をつなぎ、新しい価値を地域へ。

53期 基盤づくり

/

54期 定着・発展

/

55期 高度化・価値創造

03 合併の意義と新たな会社づくり

代表取締役社長 中村 明彦

このたび、村尾技建とエコノスは一つの会社として新たな歩みを始めました。地質・土質・防災の技術と、測量・環境の技術を結び、地域の課題に幅広く応える総合建設コンサルタントを目指します。新中期経営計画では「融合から創造へ」を掲げ、互いの強みを学び合い、部門を越えて協力できる会社をつくります。一人ひとりが仕事に誇りを持ち、成長を実感できる職場を、ともに育てていきましょう。本誌が、仲間を知るきっかけとなることを願っています。

04 村尾技建の歩みと次世代へ

取締役会長 村尾 治祐

村尾技建は、創業以来、大地と向き合い、地域の安全・安心を支える仕事を重ねてきました。今日まで支えてくださったお客様、地域の皆様、協力会社の皆様、そして社員とご家族に、心より感謝申し上げます。現場で培った技術と信頼は、私たちの大切な財産です。エコノスの皆さんとともに、その財産を次の世代へ引き継ぎ、若い力で新たな可能性を広げていただきたいと願っています。

05 エコノスの歩みと合併への思い

取締役副社長 南雲 秀人

エコノスは、測量・環境分野の仕事を通じて、地域の暮らしと社会基盤を支えてきました。これまでご縁をいただいた皆様と、日々の仕事に力を尽くしてきた社員に、深く感謝申し上げます。今回の合併には、私たちが育んだ技術と地域とのつながりを、さらに大きく生かしてほしいとの思いを託しています。互いの歩みを尊重し、学び合うことで、一社では届かなかった課題にも応えられると信じています。

村尾治祐氏が会長就任 新社長に中村明彦氏

村尾技建

村尾技建（本社・新潟市中央区）は、12月3日付で代表取締役社長が交代し、前社長の村尾治祐氏が取締役会長に、新社長には前副社長の中村明彦氏が就任した。



村尾会長（左）と中村社長（右）

2025年に設立50周年の節目を迎えた同社は、「大地の声を、聞く。」という姿勢を大切に、地質・土質・地下水に関わる技術を通じて、地域の安全・安心に向き合うとともに近年は災害対応の現場で迅速さと確実性を重視した取り組みを重ねてきた。企業理念に「仕事を通じて自らを高め、社会に貢献する」を掲げ、優れた技術と創造力により、安全・安心できる人間社会の実現に貢献することを目指している。

村尾会長は「今後も村尾技建は新たな体制のもと、これまで培ってきた技術と姿勢を大切にしながら、事業の幅を広げ、組織力のさらなる向上に取り組みでまいりたい。地域に根差した企業としての基本姿勢は、これらも変わることはありません」と話す。中村社長は「多くの皆さまが築き上げてこられた50年の歴史を引き継ぎ、未来につなげていくという重責を担うことになり、身の引き締まる思い」としながら、同社が「災害対応力No.1」を目指して、地質・土質・地下水の総合コンサルタントとしての確固たる地位を築き、各種災害対応に関わり被災地の早期復興・復興に貢献していることから「この強固な基盤を受け継ぎ、『変化への挑戦！』をスローガンに、次なる50年に向けた成長・進化を加速させたい」と決意を示す。さらに、培ってきた専門知識

や技術を核としつつ「調すことのできない、そして必要とされ続ける企業管理まで幅広く対応できる」を目標とし、業界に「幸福度No.1」にむけて、これまで以上に人財育成に力を入れ、社員が誇りを持ち、多様性

『村尾技報2025』完成



『村尾技報2025』の表紙

同社は、1年間に取り組んできた学業・業界・協会の活動内容、現場での知見や技術成果をまとめたテクニカルレポート『村尾技報2025』を作成した。今回は、新会長・新社長のあいさつのほか、設立50周年を迎えた今年

は、5月に開催した式典をはじめとする各種記念事業の記録、学会での発表内容、「M-JUKU」「M-Forum」などの1年間の事業活動を時系列でまとめるとともに、表彰や感謝状の受賞、メディア掲載情報の紹介などを盛り込んだ内容となっている。同冊子は発注者や取引先、採用活動の際に配布するなど、対外的に発信するツールとして活用していく考えだ。

を尊重し、やりがいや働きがいを実感しながら仕事ができる環境を整えて社会貢献につなげる取り組みを「スピード感を持って推進していきたい」と意欲を見せる。



2026年2月19日

各位

会社名 アジア航測株式会社
 代表者名 代表取締役社長 畠山 仁
 (コード番号 9233 スタンダード市場)
 問合せ先 取締役経営戦略本部長 梅村 裕也
 (TEL 044-969-7230)

連結子会社間の合併に関するお知らせ

アジア航測株式会社(本社:東京都新宿区、代表取締役社長 畠山仁、以下「当社」という。)は、2026年10月1日を効力発生日として、当社子会社である株式会社村尾技建(以下、「村尾技建」という。)及び株式会社エコノス(以下、「エコノス」という。)において、村尾技建を存続会社としてエコノスを吸収合併すること(以下、「本合併」という。)について決定いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 本合併の目的

当社グループは、2023年に公表したアジア航測グループ長期ビジョン2033では、『空間情報技術で社会をつなぎ、地球の未来を創造する』をスローガンに掲げ、同時発表した中期経営計画においては、安全・安心やGXなど社会的な要請を背景として流域マネジメント、道路・鉄道、エネルギーなどの重点事業分野の推進にグループ一丸となり取り組んでおります。

当社子会社である村尾技建及びエコノス(以下、両社という。)は新潟県を本社としており、国・県を中心に地質・測量・環境・防災などの事業を展開しております。本合併は、新潟・北陸圏を中心とした地域において、両社が一体となり当社グループのコア技術である「空間情報技術」をベースに幅広い事業分野でサービスを提供し、持続的に地域社会へ貢献することを目的としております。

2. 本合併の要旨

(1) 本合併の日程

主な日程は以下のとおりです。

時期	内容
2026年7～8月	合併承認に係る株主総会の開催(村尾技建、エコノス)
2026年8月	合併契約の締結(村尾技建、エコノス)
2026年10月1日(予定)	合併効力発生日

(2) 本合併の方式

村尾技建を存続会社とし、エコノスを消滅会社とする吸収合併といたします。

(3) 本合併に係る割当の内容

本合併は、当社の完全子会社間の合併であるため、株式またはその他財産の割当てはありません。

(4) 本合併に伴う新株予約権及び新株予約権付社債に関する取扱い

該当事項はありません。

3. 本合併当事会社の概要

	存続会社	消滅会社
(1) 商 号	株式会社村尾技建	株式会社エコノス
(2) 所 在 地	新潟県新潟市中央区女池南2丁目4番17号	新潟県長岡市青葉台1丁目甲120-8 長岡ニュータウンセンタービル2階
(3) 代 表 者	代表取締役社長 中村明彦	代表取締役社長 中村明彦
(4) 主 な 事 業 内 容	①地質・土質・地下水調査 ②土壌・地下水汚染調査 ③地質・土質・地下水に関する計画・解析・設計	①地上測量(基本・応用)、3次元計測 ②自然環境調査、環境保全・ピオトープ計画 ③防災教育・普及支援
(5) 資 本 金	61百万円	10百万円
(6) 設 立 年 月 日	1975年5月2日	1967年5月1日
(7) 発行済株式総数	86,565株	200株
(8) 決 算 期	9月30日	9月30日
(9) 大株主及び持分比率	当社 100%	当社 100%

4. 本合併後の状況

	内容
(1) 商 号	(検討中)
(2) 所 在 地	本社：新潟県新潟市、拠点：新潟県長岡市・上越市・佐渡市、石川県金沢市
(3) 代 表 者	代表取締役社長 中村明彦
(4) 資 本 金	100百万円
(5) 主 な 事 業 内 容	①地質・土質・地下水調査、土壌・地下水汚染調査 ②地形評価・防災地質評価、災害リスク解析、土木設計・防災設計 ③測量(基本・応用・3次元計測)及び3Dデータ解析 ④自然環境調査(動植物・生態系)及び環境保全・各種計画 ⑤計画・解析・設計(地質・土質・地下水、インフラ、環境、防災分野) ⑥地域防災・教育支援、技術普及事業(社会貢献・地域連携強化)
(6) 決 算 期	9月30日(変更なし)

5. 今後の見通し

本合併は、当社の連結子会社間の合併であるため、当社の連結業績に与える影響は軽微であります。

以 上

村尾技建が10月1日付でエコノスを吸収合併 新潟・北陸の事業サービス拡充へ

2026-02-20 7か月前

下越

企業

経済



村尾技建

株式会社村尾技建（新潟市中央区）は10月1日を効力発生日として、同じアジア航測株式会社（東京都新宿区）の連結子会社である株式会社エコノス（新潟県長岡市）を吸収合併する。村尾技建を存続会社とし、エコノスは消滅することを、親会社のアジア航測が2月19日に発表した。

新潟・北陸圏を中心に地質調査や測量、環境防災などの事業を展開するグループ子会社2社が一体となり、コア技術である「空間情報技術」をベースに幅広いサービスを提供することが目的。

合併後の新会社の商号は検討中で、資本金は1億円となる。本社を新潟市に置き、長岡市や上越市、佐渡市、石川県金沢市などに拠点を構える。代表取締役社長には、現在両社の代表を務める中村明彦氏が就任する。

アジア航測によると、本合併は完全子会社間の合併であるため、当社の連結業績に与える影響は軽微としている。

2026年2月20日 にいがた経済新聞

空間情報コンサルタントのアジア航測（畠山仁代表取締役社長、東京都新宿区）は、同社の子会社である村尾技建（中村明彦代表取締役社長、新潟市中央区）とエコノス（前同、長岡市）を合併させる方針を明らかにした。本年10月1日を効力発生日とし、村尾技建がエコノスを吸収合併する形となる。両社の株主総会を経て、8月に合併契約を締結する。

10月1日に合併へ 村尾技建とエコノス

アジア航測

両社は、新潟県に本社を置き、金は1億円。主な事業内容として①地質・土質・地下水調査、境・防災などの事業 土壌・地下水汚染調査②地形評価・防災地質評価、災害リスクを展開している。今回の合併は、新潟・北陸圏を中心とした地域で両社が一体となり、アジア航測グループのコア技術である「空間情報技術」をベースに幅広い事業分野でサービスを提供し、持続的に地域社会に貢献すること（目的）。

なお本社は新潟市、拠点は長岡市、上越市、佐渡市、金沢市

合併後の商号は検討中で、代表者には中村社長が就く。資本とする。

村尾技建

社員の健康増進に注力

イベント開き意識高める

6年連続で健康経営優良法人に認定されている村尾技建(中村明彦社長、新潟市中央区)は、社員の健康増進を経営課題とする「健康経営」に注力している。住友生命保険

と協力し2月25日、今年4回目の健康チェックイベントを本社会議室で開催した。

や血管年齢測定、体成分分析装置「In Body」による検査を実施。これまで実施した過去3回のデータと照らし合わせ、1年間の推移を確認した。

住友生命新潟支社の小林弘幸マーケット開発部長は「村尾技建様をはじめ、建設企業の健康意識

In Bodyで計測する様子



は非常に高まってきている。In Bodyに興味を持たれる方も多く、健康増進イベントは今後さらに活発化していく見通し。建設業は体が資

本の業界なので、ぜひ役立ててほしい」と呼び掛けた。同支社の角井宏行営業推進担当課長も「公共工事入札で『健康経営』は加点評価の対象。積極的に取り組んでいきたい」とメリットを説明。イベント参加者は「自

分自身では気付かない体調の変化なども数値やグラフで見ると分かりやすい。日々の生活習慣を少しずつ見直していきたい」と感想を述べた。村尾技建の手塚裕樹専務は「2026年度も継続して実施し、社員全員が健康で働きやすい職場づくりを心掛けていきたい」と意気込みを語った。

下期期首合同会議を開催しました

2026.4.13

4月10日、「村尾技建・エコノス 下期期首合同会議」を開催しました。

今回は、2026年10月に合併を予定している株式会社エコノスとの合同開催となり、今後に向けた重要な節目の会議となりました。

第1部では、社長からの方針説明の後、各部門長より上期の振り返りと下期の取組方針が発表されました。

第2部の特別企画では、生産部門の部門長によるトークセッションを実施し、合併後の技術戦略や目指すべき方向性について活発な意見交換が行われました。参加者一人ひとりが未来を考える貴重な機会となりました。

下期も社員一同、一層業務に励んでまいります。

変化への挑戦

～ Go Forward & Challenge to Change ! ～



2026 年 4 月 13 日 ホームページ

建技尾村

過去最多38人が参加 海岸清掃ボランティア

「ひなた」も協力

村尾建技（新潟市中央区）は4月25日、地域貢献活動の一環として新潟市西蒲区の越後七浦海岸で「第5回海岸清掃ボランティア活動」を実施した。社員や家族・友人に加え、特別ゲストとして、長岡をはじめ県下を中心に活動する音楽ユニット「ひなた」のメンバーとその家族も参加し、過去最多となる計38人が海岸

美化活動に取り組んだ。

当日は例年よりも肌寒さを感じる気候となる中、およそ2時間にわたり、漂着ごみやプラスチック類、空き缶、ペットボトルなどを丁寧に回収した。

活動に先立ち、事前に作成したKY（危険予知）シートに基づき安全ミーティングを実施。▽軍手の着用▽危険物に素手で触れない▽単独行動を避ける▽体調不良時は無理

をしないーなどを確認した上で、複数の班に分かれて清掃作業を行った。

県内から訪れていたサーファー数人から「俺らだけ遊んでいる訳にいかない」と声をかけられ、活動開始後の約1時間、清掃活動に自主的に参加するなど、立場や世代を超えた協力の輪が自然と広がる場面も見られた。

同社担当者は「今回は社員だけでなく、ご家族や友人、日頃から縁の

ある『ひなた』のお二人にもご参加いただき、過去最大規模の活動となった。海岸清掃を通じて地域に貢献できただけでなく、人と人とのつながりを深める貴重な機会にもなった」と話す。家族で参加した社員からは、「子どもと一緒に参加した

が、ごみ拾いを通じて、海をきれいにすることや地域の自然を大切にすることを、親子であらためて考える良い機会になった」との声も聞か

れた。特別ゲスト「ひなた」のメンバーは「地域を元気にする活動に、音楽と気にはまた違う形で参加でき

てうれしい。皆さんと一緒に海岸をきれいにでき、とても気持ちの良い時間でした」とコメントした。



約2時間で多くのごみを回収した

今回の活動について同社では、SDGs目標14「海の豊かさを守ろう」にもつながる取り組みと位置付け、「新潟市ボランティア清掃・地域清掃等補助金制度」も活用しながら、今後も地域清掃やボランティア活動を継続していく方針だ。

なお開催時期について、来年度以降は気候の安定する5月開催に戻すことも検討しているという。

村尾技建 若手とベテランが討議 26年度安全大会を開催

村尾技建（新潟市中央区）は15日に2026年度の安全大会を開き、協力会社など延べ80人弱が参加した。グループセッションで若手とベテランが意見交換し無事故・無災害への意識を高め合った。

村尾治祐会長が26年度の安全スローガン「急が

ない 心に余裕 ゼロ災害」を読み上げ、参加者全員で唱和し気持ちを一つにした。安全の誓いは村友会の阪本巖会長（阪本ボーリング）が代表して宣誓。事故防止の徹底を誓った。

25年度の安全パトロール総括を山田寛理事が、労災事故発生状況は技術部の川上進一課長がそれぞれ報告した。

近年頻発化するクマ被害について、対策を掘口



全員でスローガンを唱和（写真右＝村尾会長）

寿彦技術審査室長が解説し、昨今の出没状況や緊急時の対応方法などを伝えた。

グループセッションでは、10人ずつ8班に分かれて討議。日常的にある危険予知やヒヤリハット事例を元に対策と原因について意見を交わした。

手塚裕樹専務は大会を総括し「埼玉県や長野県の協力企業からも参加いただいた。グループ討論ではベテランからのアドバイスに若手社員が応えるキャッチボールもあり、多くの気づきがあった。技術者はもちろんのこと、営業担当や管理職も一丸となりさらなる事故防止に努めていこう」と呼び掛けた。

オフィシャルサポーターの紹介



認定番号:001

企業・団体名:株式会社エコノス

認定年度

令和5年度

活動地域

84北陸

取組内容に関する問い合わせ先

0258-86-4850

取組内容(予定含む)

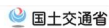
- ・令和5年7月から社員名刺に流域治水ロゴマークと流域治水プロジェクトWEBページのQRコードを記載。
- ・令和7年4月に流域治水ロゴマークを記載したシールとのぼり旗を作成。
- ・令和7年8月に大河津分水にて流域を考えるイベントを実施予定。
- ・令和7年9月に長岡市にて信濃川に関する親子講座の講師を予定。

過去の取り組み実績

令和7年度取り組み実績はコチラ

令和6年度取り組み実績はコチラ

流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（1）企業等のWeb ページ、SNS、広報誌、ポスター等への情報掲載



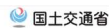
流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（3）各種イベント、セミナー、学会、講座、研修等での紹介



流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（1）企業等のWeb ページ、SNS、広報誌、ポスター等への情報掲載



流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（5）流域の上流地域と下流地域の連携を推進する取組



流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（2）流域治水に関する広報資料の配布・掲示、アナウンス等



流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（7）その他、流域治水の優良な活動についての周知など流域治水に資すると国土交通省が認める取組



流域治水オフィシャルサポーター 令和7年度取り組み実績



認定番号：1 サポーター名：株式会社エコノス
 ▶実施内容の分類：（2）流域治水に関する広報資料の配布・掲示、アナウンス等



技術・組織力高め合う M-Forumを開催

村尾技建

村尾技建（中村明彦社長、新潟市中央区）は18日、社内発表会「M-Forum2026」を開



フォーラムの様子

催した。一日を通して学びを深め、全社員で成果や課題を共有した。発表論文のうち表彰対象となる14編の論文の中から、最優秀賞に渡邊寛也氏の「河川堤防の交状と沈下・液状化解析」を選び表彰した。表彰式では受賞者が喜びを語り、今後のさらなる技術研さんへの決意を新たにした。

優秀賞には椎野実優氏「活動中の地すべりにおける技術営業の事例紹介」、社長賞は漆山凌氏「三次元地すべり安定解析を用いた高規格道路盛土計画の評価事例」を選定し表彰状を贈った。

村尾治祐会長はA



受賞した3人と記念撮影

Iの可能性について「国土の脆弱性を見つけ、改善策を提案する地質調査にも大いに活用できる」

織全体の知見として共有することが重要。フォーラムを通じて技術力と組織力の双方を高めていくと強調した。

技術部江村剛執行役員が「技術の融合が創る村尾技建の未来」と空間基盤情報を核とした新たな価値創造」と題して基調講演を行った。本フォーラムは年に1度開催するプレゼンテーション大会で、26年度はセクションを6つに分けて計21編の技術発表があったほか、招待講演や執行役員による基調講演を開催した。技術部のほか営業担当、事業開発部や管理部も各々の業務の中での気付きや事例をテーマに発表した。

村尾技建

大河津分水の歴史学ぶ フォーラム2日目に見学会

村尾技建は19日に大河津分水路で見学会を開催した。社内発表会「M-Forum2026」の関連行事で社員23人が参加した。10月に同社と合併予定のエコス・樋口

村尾技建は19日に大河津分水路で見学会を開催した。社内発表会「M-Forum2026」の関連行事で社員23人が参加した。10月に同社と合併予定のエコス・樋口動堰、洗堰などの主要施設に関する説明を受けた。大河津分水建設の歴史や施工技術、事業に携



周辺施設説明の様子

わった先人たちの功績を学んだほか、「横田切れ」をはじめとする信濃川流域の水害史や、大河津分

域の水害史や、大河津分水路改修事業について、映像やパネル展示を用いた説明を受けた。屋上展望スペースから工事現場を見学し、

水完成後にもたらされた治水効果など事業への理解を深めた。

参加者は、越後平野を繰り返した洪水被害と、それを克服するため進められた大河津分水路改修事業が進む様子を確認した。

事業の情 報発信基地 にとこみ えーる館で は、現在進 められてい る大河津分 水路改修事 業について、 映像やパネ ル展示を用 いた説明を 受けた。屋 上展望スペ スから工事 現場を見学 し、

大河津分水

Love River Net
川の「ステキ」を再発見!

Love River Net

川の「ステキ」を再発見!

サングスフェスタ

～水辺にまつわるエトセトラ 2026～

2026

6/27

土

9:00～16:00

まりさんぽ & トークショー

時間 14:00～16:00

会場 信濃川大河津出張所 ほか

無料 要申込

定員 先着80名



ラジオパーソナリティ
遠藤麻理さん

ラジオパーソナリティの遠藤麻理さんと一緒に大河津分水をウォーキング！そこかしこに仕掛けられたナゾトキをしながらゴールを目指します。

ゴールに着いたら遠藤麻理さんと一緒に川にまつわるクイズにチャレンジです！

※まりさんぽの立ち寄り場所は、資料館、操作室、魚道観察室を予定しています。
※クイズは新潟経営大学中島ゼミの皆さんが出題します！
※クイズでは遠藤さんに利き水にチャレンジしてもらいます。見事、正解できたら、参加者に信濃川ゆかりの飲料水をプレゼントします！



つばめ元気がやき
ポイント
5ポイント
事業です！

まりさんぽにご参加いただいた方には「つばめ元気がやきポイント」を差し上げます！ポイントをためて健康とお得をゲット！

※ポイント付与対象は燕市在住、在勤、在学の方です。



ナゾときチャレンジ



魚道観察室



操作室

まりさんぽ & トークショー
お申込みはこちら

フォームでの申込



水辺に親しむ クラフト体験をしよう！

大河津神社、燕こびんワーク
ショップ、竹水鉄砲づくり、
凧づくり、折り紙でおさかな
づくり、ペットボトルホル
ダー、川流れボールすくい、
資料館スタンプラリー

※詳しくはウラ面をご覧ください。

同時
開催

生き物観察会

時間 9:00～10:30

集合 信濃川大河津資料館

要申込 定員 先着20名

無料

生き物観察会
のお申込みは
こちら

大河津分水に入って水辺の生き物を観察！
アメリカザリガニは駆除にご協力ください。



持ち物 魚とり網、バケツ
等、水分補給の飲み物
当日の服装 ブックやかか
との脱げないサンダル、
濡れても良い服、帽子
※着替えもご用意いただ
けると安心です。



主催：Love River Net、燕市、新潟経営大学中島ゼミ 後援：信濃川河川事務所
協力：NPO法人信濃川大河津資料館友の会、ATC、株式会社エコス



村尾技建

働くことの意義伝える

中学生招き職場体験

村尾技建は地域貢献活動の一環として、鳥屋野

中学校の総合的学習に協力し職場体験を行っている。

2日に同校の2年生2人が本社を訪問し働くことの意義や仕事のやりがいについて学んだ。

村尾治祐会長は「われわ



事前課題を発表する生徒

であり、働くことでやりがいや成長を感じることが出来る。地質調査というわれわれの仕事は、地域の安全を地面の下から支えている。地域の暮らしを守る、という使命があり、やりがいは大きい」とあいさつ。その上で「本日の体験が自分の未来を考えるきっかけになればうれしい。たくさんのお礼を持ち帰ってほしい」と呼び掛けた。

参加生徒にはあらかじめ事前課題が与えられ、ハザードマップや液化化しやすいマップなどから自分たちの地域に潜む危

険性について調査。当日は調べた内容を発表し鳥屋野・女池地帯が水に弱い理由について考えた。

生徒2人はボーリングコア観察や地層観察なども体験し、地質調査業務の仕事内容や自分たちの生活との関わりについて理解を深めていた。

2026年7月13日 新潟建設新聞

7件・3人に栄誉 優良工事・委託を表彰

高田河川国道

北陸地方整備局高田河川国道事務所は22日、本年度の優良工事等表彰式を挙行政した。今回は優良工事2件、優良業務3件、

優良建設技術者（委託業務）で1人、優良工事における下請負者で2社・2人が事務所長表彰の栄誉に輝いた。当日は局長表彰を受賞した相村建設、田辺建設、キタツク、レックスの優良工事・業務・優良建設技術者の表彰状も披露された。尾崎誠所長は、対象となった工事47件、委託業務58件の中から選定したことを紹介し「表彰された皆さまは優れた技術力をもって、困難で厳しい現場状況を克服し、優秀な成果を上げられた、まさに他の模範となる方々」と敬意と祝意を表した上で、今後受発注

者が協働して建設業全体が将来にわたり健全に発展していけるよう協力を呼び掛けた。

受賞者を代表し、大島

組の大嶋正寛代表取締役は「数ある対象工事の中から優良工事表彰の栄誉を賜りましたことは受賞者一同、身に余る光栄」

と感謝し「今回の受賞を機に、さらなる品質と技術力の向上に努めるとともに、地域の皆さまの生活環境をより快適に、かつ豊かなものとし、安全・安心な地域づくりの担い手として今後もたゆまぬ努力と精進を重ねてまい

る所存」と謝辞を述べた。

事務所長表彰の受賞者および対象工事（業務）は次の通り。※敬称略

◆優良工事

◇大島組ⅡR6・7上沼道米岡地区軟弱地盤改良その6工事◇高館組Ⅱ上沼道米岡地区軟弱地盤改良その5工事

◆優良業務

◇八千代エンジニアリング北陸支店Ⅱ令和6年度関川水系保倉川放水路海域影響検討業務◇村尾技建Ⅱ令和7年度高田管内地質調査業務◇オリエンタルコンサルタンツ北陸支社Ⅱ令和6年度糸魚川地区道路予備修正設計業務

事務所長表彰の優良工事受賞者①、優良業務受賞者②



事務所長表彰の受賞者および対象工事（業務）

◆優良建設技術者（委託業務）

◇松沢政和（管理技術者、オリエンタルコンサルタンツ北陸支社）Ⅱ令和6年度糸魚川地区道路予備修正設計業務

◆優良工事における下請負者（主任技術者）

◇師橋衛（ライト工業関越統括支店）◇岩田和広（小野田ケミコ関越支店）

会津土建、エコノスに荣誉 優良工事・委託の表彰式

阿賀川河川

北陸地方整備局阿賀川河川事務所は24日、2025年度完成優良工事等事務所長表彰式を開催した。本年度は「長井河道掘削他その14工事」を施工した会津土建が優良工事、同工事の監理技術者である渡部弘和氏が優良



鈴置所長

建設技術者（工事）を受賞。「令和7年度阿賀川・大川ダム水辺現地調査（魚類等）業務」を手掛けたエコノスが優良業務、同業務の担当技術者を務めた安永佳生氏が優良建設技術者（業務）の荣誉に輝いた。

鈴置真央所長は、25年度に完成・完了した工事13件、業務24件の中から選ばれたことを紹介。皆さまは卓越した技術力、創意工夫、旺盛な責任感を持って完了し、特に優れていると評価されたものがあり、その不



受賞者と関係者が記念撮影

断の努力、技術の研さんに

対し敬意と感謝を表する」とした上で「さらに技術の向上を図っていただき、他の模範となるようお願い申し上げます」と祝意を表し、安全で安心して暮らせる地域づくりのために協力を要請した。

受賞者を代表し、エコノスの中村明彦代表取締役社長は「業務成果や取り組み姿勢に対して多大なる評価をいただき大変光栄であり、私も建設業界に身を置く者として日頃の技術研さんの成果に対して評価をいただくこと、そしてその技術が社会課題の解決の一助となり阿賀川河川事務所の事業推進を通じて社会に貢献できることに大きな喜びを感じている」と感謝しながら「発注者のパートナーとして、より効率的で効果的な社会資本の整備や建設業界の魅力向上と担い手確保・人材育成を進めるとともに、安全・安心に加え豊かな社会インフラの整備に今後とも微力ではありますが尽力していく所存」と謝辞を述べた。

2026年7月28日 新潟建設新聞

合併公告

左記会社は合併して甲は乙の権利義務全部を承継して存続し乙は解散することになりました。この合併に対し異議のある債権者は、本公告掲載の翌日から一箇月以内にお申し出下さい。なお、最終貸借対照表の開示状況は次のとおりです。

(甲)(乙) 掲載紙 官報

掲載の日付 令和七年十二月二十三日

掲載頁 一一八頁(号外第二八〇号)

令和八年八月二十日

新潟市中央区女池南二丁目四番一七号

(甲) 株式会社村尾技建

代表取締役 中村 明彦

新潟県長岡市青葉台一丁目甲一二〇番地八

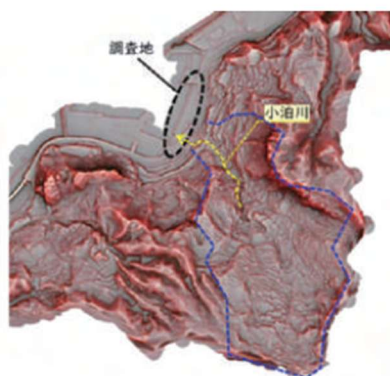
(乙) 株式会社エコノス

代表取締役 中村 明彦

事務所長表彰(優良委託業務) 高田河川国道事務所

令和7年度高田管内地質調査業務

【選定理由】業務は上越三和道路の動態観測、柿崎川橋、能生地区及び名立小泊、富岡、関川の災害箇所において、各地区における調査目的を理解し、現地制約を踏まえ、迅速な地質調査が必要であった。受注者は、各事業の担当者と調整し、調査目的を理解して、的確に調査計画を立案し、追加調査指示においても迅速に対応し優れた成果を収めた。



地質・土質・地下水の総合コンサルタント

株式会社 村尾技建

代表取締役社長 中村 明彦

〒950-0948 新潟県新潟市中央区女池南2丁目4番17号

T E L 025-284-6100(代表) F A X 025-283-0368

2026年9月10日 新潟建設新聞

令和7年度阿賀川・大川ダム水辺現地調査（魚類等）業務

受賞者 担当技術者 安 永 佳 生

【選定理由】調査にあたっては精度の確保を重視し、事前にUAVによる空撮を実施して調査区域の環境を把握したうえで、現地調査計画に反映させることで、効率的かつ確実な調査を実現した。特に阿賀川においては、イトヨと湧水との関係性に着目し、熱赤外線カメラを搭載したUAVを用いて湧水箇所を特定したうえで調査を行うなど、高度な専門技術力を発揮した。また、大川ダム湖では、音響測深機を活用して湖底地形を把握し、適切な位置に漁具を設置することで信頼性の高い成果を得た。さらに、重要種及び外来種の分布状況の経年変化を整理するとともに、調査結果を分かりやすく可視化し、阿賀川の魚類と河川環境との関わりまで踏み込んだとりまとめとした。



株式会社エコノス

代表取締役社長 中 村 明 彦

〒940-2145 新潟県長岡市青葉台1丁目甲120番地8

TEL 0258-86-4850 FAX 0258-86-4851

令和7年度阿賀川・大川ダム水辺現地調査（魚類等）業務

【選定理由】調査にあたっては精度の確保を重視し、事前にUAVによる空撮を実施して調査区域の環境を把握したうえで、現地調査計画に反映させることで、効率的かつ確実な採捕を実現した。特に阿賀川においては、イトヨと湧水との関係性に着目し、熱赤外線カメラを搭載したUAVを用いて湧水箇所を特定したうえで調査を行うなど、高度な専門技術力を発揮した。また、大川ダム湖では、音響測深機を活用して湖底地形を把握し、適切な位置に漁具を設置することで信頼性の高い成果を得た。さらに、重要種及び外来種の分布状況の経年変化を整理するとともに、調査結果を分かりやすく可視化し、阿賀川の魚類と河川環境との関わりまで踏み込んだとりまとめとした。



株式会社エコノス

代表取締役社長 中 村 明 彦

〒940-2145 新潟県長岡市青葉台1丁目甲120番地8

TEL 0258-86-4850 FAX 0258-86-4851

村尾技建

地域防災力の向上へ

救命講習会を実施

「災害対応力ナンバー1」を目指す村尾技建は、本社や各事務所にAED（自動体外式除細動器）を設置し、地域防災に貢献する。同社は新潟市のいいがた救命サポーター制度の登録事業者で、近隣で事故があった際には現場へAEDを届け、救命措置を行う。平時からの備えとして定期的に講習会を実施しており、9月第1週目の防災週間にあわせて2日に救命講習会を開いた。今回で4回目の実施となる。

講師には新潟市消防局の職員を招致。心肺蘇生用訓練人形（模擬人体）を用いて、要救護者の発見から声掛け、心臓マッサージなど一連の流れを確認した。参加者は実際の

の場面で行動できるように実施の流れを2〜3回繰り返して行っていた。



訓練の様子

AEDの使用手順では、使用する際の注意事項について講習用ビデオを視聴。手順に従いながら電気ショックを実行して胸部圧迫を行った。緊急時にも落ち着いて対処できるようAEDについて一連の流れを繰り返して行った。



【村尾技建∞エコノス】合併情報 Vol.1 ～中村社長からのメッセージ～

【村尾技建∞エコノス】合併情報公開掲示板

村尾技建の皆様、エコノスの皆様

お疲れ様です。中村です。

日々の業務対応ありがとうございます。北陸も梅雨明けし、連日厳しい暑が続いていますが、暑さ対策を徹底して体調管理に努め、安全第一・健康第一で猛暑を乗り切っていただきたいと思います。

さて、10月1日の村尾技建×エコノスの合併に向け、残り2ヵ月を切りました。これまで合併準備委員会の取り組みを通じ、様々な事項を検討してまいりましたが、合併にあたり皆様に共有しなければならない事項が徐々に固まりつつあります。

そこで、teams内に「合併情報公開掲示板」を立ち上げ、必要な情報を順次公開していくことといたしました。

今回は、第1回目として、まずは10月1日の合併実施と、合併後の目指す姿・4つの戦略などを示した画像（ファイル名：【村尾技建×エコノス】合併情報 01 20260810.pdf）をアップします。合併に向けて、社員の皆様と共有したい思いが凝縮されていますので、ぜひ一読いただきたいと思います。

—— 令和8年10月1日、株式会社村尾技建と株式会社エコノスは合併します ——



株式会社 村尾技建 の強み



土質・地質調査
地盤の特性を見極め、安全・安心の基盤を支える



防災施設の計画・設計
防災インフラの計画から設計までをトータル支援



土壌汚染調査
土壌・地下水の調査・評価で環境リスクを低減



測量調査
高精度な測量で社会インフラ整備を支援



自然環境調査
生態系や自然環境の調査で持続可能な地域づくりに貢献



防災企画(ソフト対策)
防災計画・訓練・啓発などソフト面から地域の安全を支援

合併後の目指す姿



変化に強く、地域に寄り添う



地域と共に、未来を拓く総合コンサルタント



全社員が誇りを持って働ける幸福度No.1企業



災害対応力・環境創造力No.1企業



人材への積極投資と技術継承



北陸地域に欠かせない総合建設コンサルタント企業



差別化技術と提案型営業の両輪で価値を提供する企業



グループ間連携を通じて絶えず成長・進化する企業

4つの戦略

1

技術融合で高度なサービスを提供

地質・環境・防災・測量の基礎基盤技術に、空間情報技術を組み合わせ、高度な技術サービスを提供します。



2

DXと働き方改革で変化に強い組織へ

DXと働き方改革を推進し、生産性と創造性を高め、変化に強い組織体制を構築します。



3

提案型営業と技術力で新たな成長機会を創出

生産技術と営業の連携を強化し、提案型営業と技術力の両輪で新たな成長機会を獲得します。



4

部門連携で持続的成長と競争力強化へ

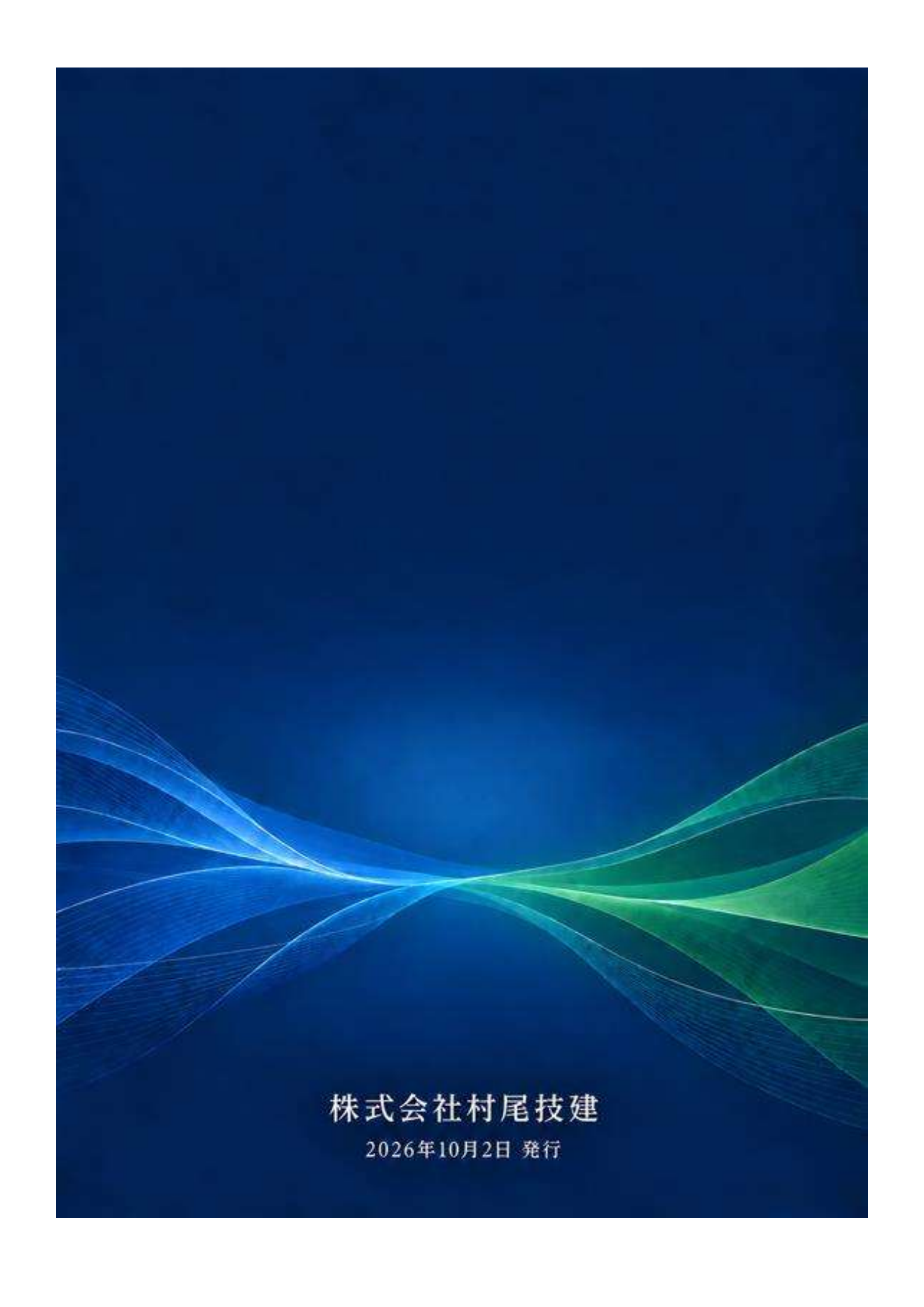
部門連携を深め、課題を力に変え、持続的成長と競争力強化につなげます。



私たちは、確かな技術と誠実な姿勢で、地域と社会の未来に貢献していきます。

合併まで50日です!一緒に新しい会社を創っていきましょう!

2026年8月10日



株式会社村尾技建

2026年10月2日 発行